

アフター強化のため石材店をグループ会社化 オンラインモールなど販売チャネルを多様化

(株)清月記 [仙台市宮城野区]

生まれてから亡くなるまでの生活全般を 100年お世話する“生命の物語応援会社”

仙台市宮城野区を本拠に年間約2,600件を施行する専門葬儀社(株)清月記(社長菅原裕典氏)は、2015年7月、宮城県岩沼市に本社をおく石材店(有)石伸をグループ会社化した。

清月記では、同社で葬儀を施行したお客様へのアフターサポートの拠点として1990年12月、同社創業の地である同市泉区長ヶ丘に仏壇店「ぶつだんギャラリー 泉 清月記」を開設。その後、05年7月に「ぶつだんギャラリー若林 清月記」(若林区)、06年7月に「ぶつだんギャラリー 中央 清月記」(青葉区)、11年12月に「ぶつだんギャラリー 石巻 清月記」(宮城県石巻市)をオープンし、現在、4店舗体制で展開している。

しかしながら、ぶつだんギャラリーは、その名のとおり仏壇・仏具の販売がメインで、墓石については、これまでは同社の協力会社で構成する「清月会」のメンバーとなっている石材店を紹介してきた。

そうしたなか、現在、政府が人づくり革命を議論する有識者会議「人生100年時代構想会議」を立ち上げ、人生100年時代を見据えた経済・社会システムを実現するための政策のグランドデザインに関する検討を行なっている。“生命の物

語応援会社”を掲げる同社では、それに先んじ「生まれてから亡くなるまで、お客様の生活全般を100年お世話する」会社となることを目指した事業展開を強化している。

英語漬けの環境で3歳から小学校6年生までの子どもを預かる学童保育・プリスクール「Kids DUO」やより豊かなシニアライフの実現をサポートするサロン「ライフスタイル・コンシェルジュ」などの開設はそうした取組みの一環である。今回のグループ会社化は、菅原社長が15年7月1日付で石伸の代表に就任することで、石伸が清月記グループであるという位置づけを明確にし、清月記で葬儀を施行したお客様に対して「葬儀が終わった後のすべてのものについてしっかりお世話していく」姿勢を表わした(清月記アフター部部长内藤徳章氏)ものである。

東北六県を営業エリアに 年間約1,000件の墓石を施工

石伸は、1987年に「コムラ石材彫刻店」として創業、92年に法人化して現社名に変更した。営業エリアは、東北六県(青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県)で、一般墓石工事施工件数は年間約1,000件。墓石のみならず、鳥居や山門、参道、石像の施工、そして、霊園の管理や設計など、石材に関する事業を幅広く



「ぶつだんギャラリー 泉 清月記」に開設した墓石コーナー



お墓活売りバスツアーの案内